

『太平經鈔』己部卷六（二十一葉表九行目）二十四葉表五行目）

二〇二四年六月二十二日

担当 亀田勝見

（一）原文

其二部界者、讀吾道書文、合於古今、於類相從、都得其要意、上賢明翕然喜之、不能禁止爲善也。乃至於敢入茅室、堅守之不失、必得度世而去。志與神靈大合洞、不得復讐於俗事也。其善乃洞究洽於天地、其神乃助天地、復還助帝王化惡、恩及草木小微、莫不被蒙其德化者。是故古者賢明得師、能助帝王致太平者、皆得此人也。

対校：『太平經』96守一入室知神戒152（以下『經』）

「其二部界者、其讀吾書道文、合於古今、以類相從、都得其要意、上賢明翕然喜之、不能自禁止爲善也。乃至於敢入茅室、堅守之不失、必得度世而去也。志與神靈大合洞、不得復讐於俗事也。其善乃洞究洽於天地、其神乃助天地、復還助帝王化惡、恩下及草木小微、莫不被蒙其德化者。是故古者賢明得師、乃能助帝王致太平者、皆得此人也。故其言事悉順善而忠信也、乃其所受道師善也。真人知之耶？」
「唯唯。」
*ゴチ：鈔対応部分

- ① 讀吾道書文： 經「其讀吾書道文」
- ② 於類相從： 經「以類相從」
- ③ 不能禁止爲善也： 經「不能自禁止爲善也」
- ④ 乃至於敢入茅室： 經「乃至於敢入茅室」
- ⑤ 必得度世而去： 經「必得度世而去也」
- ⑥ 恩及草木小微： 經「恩下及草木小微」
- ▽⑦ 是故古者賢明得師： 經「是故古者賢明得師」 從經
- ⑧ 能助帝王致太平者： 經「乃能助帝王致太平者」

書き下し

其の二部界なる者は、吾が道書文を読み、古今に合して、類において相従ひ、都て其の要意を得れば、上賢明は翕然として之を喜び、善を爲すを禁止する能はず。乃ち敢えて茅室に入りて、之を堅守して失はざれば、必ず世を度りて去るを得るに至る。志は神靈と大いに合洞し、復たは俗事を讐しむを得ず。其の善は乃ち洞して天地に究洽し、其の神は乃ち天地を助け、復還た帝王の化惡を助け、恩は草木小微に及び、其の徳化を被蒙せざる者なし。是の故に古の賢明・徳（得）師、能く帝王の太平を致すを助くるは、皆此の人を得ればなり。

日本語訳

(守一を修得できた「上首一部大界」に引き続き)その第二の部界は、私の道書の文を読み、古今に照らし合わせその通じ合う類に従うことで、全体の要意をつかむことができる。このうち、最上の賢明なる者はそろってこの内容を喜び、善行を行わずにはいられない。その上で茅室に入り、体得したことを堅守して失わないようにすれば、必ず得道仙去することができる。その志は神霊と大いに通じ合い、俗事を楽しむことはできなくなる。その善なるあり方は天地に通じてあまねく行きわたり、そのすぐれた働きは天地を助け、さらには帝王が悪を教化する行いをも助け、その恩徳は草木や小さな生き物にまで及んで、その徳による化育の恩恵を受けないことがない。このため、古の賢明にしてすぐれた徳を有する師が(世に現れて)太平を実現せんとする帝王の事業を助けることができたのは、いずれもこのような人を得たからである。

注

・二部界

『經』96守一入室知神戒152：是故夫守一之道，得古今守一者，復以類聚之。上賢明力為之，可得度世；中賢力為之，可為帝王良輔善吏；小人力為之，不知喜怒，天下無怨咎也。此者，是吾書上首一部大界也。恐俗人積愚，迷惑日久，不信吾文，故教示使與古今守一之文合之，以類相從，乃以相證明也。(ゴチ：前回張氏担当『鈔』対応箇所)

『鈔』丁部(10a)「二人并力同心，圖畫古今舊法度，行聖人之言，明天地部界分理，萬物使各得其所，積賢不止，因為帝王良輔，相與合策共理致太平。」他多数使用例あり。

・翕然喜之

『經』88作來善宅法129「今故承天心意，為太平道德之君作來善，致上皇良平之氣宅於四達道上也，欲樂四方悉知德君有此教令，翕然俱喜，各持其善物殊方，來付歸之於上，無遠近悉出也，無復斷絕者也。」

『後漢紀』孝桓皇帝紀下「先是敘州刺史郭宏、漢陽太守趙喜、安定太守孫俊皆不任職，倚恃貴戚，有司不敢糾。規悉條奏其罪，羌人聞之，翕然乃喜，一時降者二十餘萬口。」

・其善乃洞究洽於天地

『經』39解師策書訣50「九者，究也，竟也，得行此者，德迺究洽天地陰陽萬物之心也」(『鈔』丙部26a)

『北史』82儒林傳論「至若劉焯，德冠搢紳，數窮天象，既精且博，洞究幽微，鉤深致遠，源流不測。數百年來，斯一人而已。」

・化惡

▲『鈔』庚部「天道將亂凶衰，則生惡師，使教化惡也。」

『魏書』釋老志「高宗踐極，下詔曰：『…其好樂道法，欲為沙門，不問長幼，出於良家，性行

素篤，無諸嫌穢，鄉里所明者，聽其出家。率大州五十，小州四十人，其郡遙遠臺者十人。各當局分，皆足以化惡就善，播揚道教也。」

『無上秘要』47齋戒品「太極真人曰：常念齋詠經行大慈、先人後身、揚善化惡、斷絕眾緣、滅念守虛、心如太玄、唯道是求、始謂能言神仙之道也。右出洞玄安志消魔經。」

·草木小微

『經』50諸樂古文是非訣77「夫大道將見，其如無味乎？用之不可既乎？眾賢原之，可以和剛柔，窮陰陽位乎？諸文書畢定，各得其所，不復憤憤乎？惡悉去矣，上帝大樂，民無崇乎？澤及小微，萬物擾擾，不失氣乎？復反於太初，天地位乎？邪文已消，守元氣乎？」

(二) 原文

中賢力共讀吾文書、合於古今道文書、以類相從、力讀而止。其賢才者、乃可上為帝王良輔善吏、助德君化惡、恩下及小微草木、陰陽和合、無復有戰鬥者。帝王長優游而無事、群臣下俱相示教力為之、莫不順善而忠信、無刑罰而理、不善不可勝矣。其民共讀吾書道文、上下通、都合計同策為一、無復知為凶惡者也。拘校古今道文、以類相從、相因為世學、父子相傳無窮已也。如三賢中賢下及民俱為之占、天地惡氣畢去矣、無復承負之厄會也。善乃合陰陽、天氣和地瑞應畢出、游於帝王之都、是皇天后土洽悅喜之證也。故讀吾文者、宜精詳之。

對校：經96守一入室知神戒152

「其中中賢力讀而吾文書，合於古今道文書，以類相從，力共讀而不止。其賢才者，乃可上為帝王良輔善吏，助德君化惡，恩下及小微草木。陰陽和合，無復有戰鬥者。帝王長遊而無憂事，群臣下俱相示教力為之，莫不順善而忠信，無刑罰而治，其善不可勝書。真人知之耶？」「唯唯。」

「其百姓俱共讀吾書道文，上下通都，合計同策為一，無復知為凶惡者也。拘校古今道文，以類相從相明，因為世學，父子相傳無窮已也。如三人大賢中賢下賢及百姓俱為之占，天地之惡氣畢去矣，無復承負之厄會也。善乃合陰陽，天地和氣瑞應畢出，遊於帝王之都，是皇天后土洽悅喜之證也。故讀吾文者，宜精詳之。以上到下，思惟其要意，得其訣，與神明無異也。真人知之耶？」「唯唯。」

▽① 中賢力共讀吾文書：經原作「其中中賢力讀而吾文書」。王明以「力讀而」三字改作「力共讀」、云「疑脫共字、又衍誤而字、今據鈔正。」楊寄林不以「力讀而」改。

▽② 力讀而止：經「力共讀而止」從經作「不止」

③ 帝王長優游而無事：經「帝王長遊而無憂事」

④ 無刑罰而理：經「無刑罰而治」

▽⑤ 不善不可勝矣：經「其善不可勝書」從經

⑥ 其民共讀吾書道文：經「其百姓俱共讀吾書道文」

▽⑦ 合計同策為一：經「合計同策為一」從經

⑧ 相因為世學：經「相明因為世學」。「相明」、或可係上文。

- ⑨ 如三賢中賢下及民俱爲之占： 經「如三人、大賢、中賢下賢、及百姓俱爲之占」
- ⑩ 天地惡氣畢去矣、無復承負之厄會也。善乃合陰陽： 『經』無此三句

▽⑪ 天氣和地瑞應畢出： 經「天地和氣、瑞應畢出」 從經

書き下し

中賢は力めて共に吾が文書を読み、古今の道文書に合して、類を以て相従ひ、力めて讀みて止まず。其の賢才は、乃ち上は帝王の良輔善吏となり、徳君の化惡を助け、恩は下小微草木に及ぶ可し。陰陽和合し、復たは戰鬥する者有る無し。帝王長えに優游して事無く、群臣は下に俱に相示教して力めて之を爲し、善に順ひ忠信たらざるは莫く、刑罰無くして理まれば、その善勝ぐる可からず。

其の民共に吾が書道文を讀めば、上下通じ都て計を合し策（筭）を同じうして一たれば、復た凶惡を爲すを知る者無し。古今の道文を拘校し、類を以て相従ひ、相因りて以て世學と爲せば、父子相傳へて窮まり己むこと無し。如し上（三）賢、中賢、下は民に及ぶまで俱に之が占を爲せば、天地の惡氣畢く去り、復たは承負の厄會無し。善なれば乃ち陰陽に合し、天地は氣を和し瑞應畢く出で、帝王の都に遊ぶ。是れ皇天后土洽く悦喜するの證なり。故に吾が文を讀む者、宜しく精さに之を詳かにせよ。

日本語訳

中賢はつとめてわが文書を読み、古今の道文道書に照らし合わせ、類に従い、その読もうとつとめる行いが止むことは無い。賢才を有する者は、上は帝王の良き補佐・能吏となり、有徳の君主が悪に施す教化を助けるので、その恩沢は微少な生き物や草木にまで行き渡り、陰陽は和合しぶつかり争うことがなくなる。帝王はとこしえにゆつたりと過ごして事も無く、群臣はその下とともに民衆に示し教えて治めることにつとめ、これによって万民は善に従い忠信に篤くなり、刑罰を用いずして世は治まる。その善なる様は列挙しきれない。

民衆がともにわが道書の文を読めば、上下は通じてそのはかりごとを一に合わせ、凶悪な行いをしようとする者もいなくなる。古今の道文を照らし合わせ、類に従えば、これによって人々に世よ学ばれるようになり、父子相伝えて止むことがなくなる。上（三）賢と中賢、そして下は民衆に至るまで、ともにこのような状態になった上で行った上で占いを行えば、天地の惡氣はことごとく消え去り、承負の災厄にも二度と会うことがない。善にしたがえば陰陽が和し、天地は氣を和合せ瑞應がことごとく出現して帝王の都に遊ぶ。これが皇天后土すべてが喜ぶ証である。故にわが道文を読む者はつぶさにこれを読み解くがよい。

注

・陰陽和合、無復有戰鬥者

『經』50 生物方訣71「禽者，天上神藥在其身中，天使其圓方而行。十十治愈者，天神方在其身中。十九治愈者，地精方在其身中。：故治十傷一者，不得天心意。：十傷六七以下，皆為亂治。陰、陽、為其乖逆，神靈為其戰鬥。」

『經』50 諸樂古文是非訣77「書卷上下衆多，各有事，宜詳讀之，更以相足，都得其意，已畢備，不深得其要意，言道無效事，故見變不能解陰、陽、戰鬥。」

『經』70 學者得失訣106「凡書為天談，十十相應者是也，十九相應者小邪矣，十八相應者小亂矣，過此而下非真，不可用也。名為亂天文地理，陰、陽、不喜，萬物戰鬥，人民被其大咎也。」

・無刑罰而理

『經』96 六極六竟孝順忠訣151「有人盡思樂忠順孝，欲思上及中賢大賢，故民不知復為凶惡，家家人人，自救自治，故可無刑罰而治也。」

・都合計同策為一（『鈔』作「同策」）

『經』114 不孝不可久生誠194「人當同其計策，與生同願，天不善之邪？而反為惡乎？」

（三）原文

其三部界者、夫人得道者必見神能使之。其上賢明者、治十中十、可為帝王使、辟邪去惡之臣也。或久久乃能入室而度世、不復譽於俗事。故守一然後具知善惡過失處、然後能守道、入室精思、然後能守神、故第三也。賢者拘校古今神書以相證明也。

中賢守一入道、之且自觀神、治十中九。可為王侯大臣、共辟去邪惡、久久冀及入室矣。

其小賢守一、入道讀書、亦或觀神、可治十中八。可為民共辟邪除惡也。亦皆拘校古今道文、以自相證明、乃愚者悉解信道也。

大賢中賢下民、俱守神道而為之、則天地四時之神悉與、邪自消亡。此則天下地上四方六屬六親之神、悉悅喜天興善助人為吉矣。

對校：經96守一入室知神戒 152

「其三部界者，夫人得道者必多見神能使之。其上賢明者，治十中十，可以為帝王，使辟邪去惡之臣也；或久久乃復能入茆室而度去，不復譽於俗事也。故守一然後且具知善惡過失處，然後能守道，入茆室精修，然後能守神，故第三也。賢者得拘校古今神書以相證明也。真人知之耶？」「唯唯。」「中賢守一入道，亦且自睹神，治十中九，可為王侯大臣，共辟除邪惡，或久久亦冀及入茆室矣。真人知之邪？」「唯唯。」「其小賢守一，入道讀書，亦或睹神，可治十中八，可為百姓共辟邪除惡也。亦皆當拘校古今道文，以自相證明，乃愚者一明，悉解信道也。如使讀一卷書，必且不信之也。反且言其非而自解，則邪惡日興，得害人也。如大賢中賢下及百姓，俱守神道而為之，則天地四時之神悉興，邪自消亡矣。真人知之耶？」「唯唯。」「如此則天下地上四方六屬六親之神，悉悅喜大興助人為吉，以解邪害。上為帝王除災病，中為賢者除疾，下為百姓除惡氣，令奸鬼物不得行也。」

- ① 必見神能使之：經「必多見神能使之」
- ② 可爲帝王：經「可爲帝王」
- ③ 乃能入室而度世：經「乃復能入茆室而度去」
- ④ 不復譽於俗事：經「不復譽於俗事也」
- ⑤ 然後具知善惡過失處：經「然後且具知善惡過失處」
- ⑥ 入室精思：經「入茆室精修」
- ⑦ 賢者拘校古今神書以相證明也：經「賢者得拘校古今神書以相證明也」
- ▽⑧ 之且自觀神：經「亦且自睹神」 從經
- ⑨ 共辟去邪惡：經「共辟除邪惡」
- ⑩ 久久冀及入室矣：經「或久久亦冀及入茆室矣」
- ⑪ 可爲民共辟邪除惡也：經「可爲百姓共辟邪除惡也」
- ⑫ 亦皆拘校古今道文：經「亦皆當拘校古今道文」
- ⑬ 乃愚者悉解信道也：經「乃愚者一明悉解信道也」
- ⑭ 大賢中賢下民：經「如大賢中賢下及百姓」
- ▽⑮ 則天地四時之神悉興：經「則天地四時之神悉興」 從經
- ⑯ 邪自消亡：經「邪自消亡矣」
- ⑰ 此則天下地上四方六屬六親之神：經「如此則天下地上四方六屬六親之神」
- ▽⑱ 悉悅喜天興善助人爲吉矣：經「悉悅喜大興助人爲吉」 從經作「大」

書き下し

其の三界なる者は、夫れ人の得道せし者必ず神を見て能く之を使ふ。其の上賢明なる者は、十を治めて十に中り、帝王の使たりて、邪を辟け惡を去るの臣と爲る可し。或ひは久久乃ち能く入室して世を度り、復たは俗事を譽たのしまず。故に一を守りて然る後具さに善惡過失の處を知り、然る後能く道を守り、入室して精思し、然る後能く神を守るが故に第三なり。賢者は古今の神書を拘校し以て相證明す。

中賢は一を守りて道に入り、亦たへ之且に自ら神を觀んとするに、十を治めて九中る。王侯の大臣となりて、共に邪惡を辟去し、久久冀ひて入室するに及ぶ可し。

其の小賢は一を守り、道に入りて書を讀めば、亦た或ひは神を觀るも、十を治めて八中る可し。民となりて、共に邪を辟け惡を除く可し。亦た皆古今の道文を拘校し、以て自ら相證明すれば、乃ち愚者も悉く解して道を信ず。

大賢中賢下民、俱に神道を守りて之を爲せば、則ち天地四時の神悉く興り、邪は自ら消亡す。此れ則ち天下地上四方六屬六親の神、悉く悦喜して大へ天いに興り善く人の吉を爲すを助く。

日本語訳

その第三の部界は、そもそも人が得道すれば必ず諸神を見出してこれを使役することができるのだが、そのうち最上の賢明なる者の場合は十回のうち十回すべてで実現でき、帝王の使臣となって邪悪を除き去ることができる。あるいはその後しばらくして静室にこもって得道し、俗事を楽しもうとしなくなる。故に守一を行った後つぶさに善悪過失の所在を知り、その後道を守り入室して精思する修行へと進み、さらにその後諸神を保持することができる。（段階を踏んで最終境地に至るため、）それ故「第三」というのである。賢明なる者は古今の神書を照らし合わせてその内容を明らかにするものである。

次に中賢が守一入道し、やはり自ら諸神を見ようとする場合、十回中九回ほどは実現できる。彼らは王侯の大臣としてともに邪悪を除き去り、その後長く願い続けて入室（し得道）するに至ることができる。

小賢が守一を行う場合、この道を志して道書を学べば、あるいは神を見ることができ、十のうちうまくいくのは八ほどであろう。彼らも民として邪悪を除き去ることができる。彼らもやはりみな古今の道文を照らして自ら内容を明らかにすれば、愚者であってもことごとく我が道を理解し信じるに至る。

大賢・中賢・下民は、いずれも神道を守ってこれを行えば、天地四時の神がみな活動を盛んにし、邪悪は自然と消え去る。これはすなわち、天下地上および四方の神や六属六親の神が、みな歓喜して大いにふるい立って人がよき結果を得るよう助けることになる。

注

・治十中十

『經』50灸刺訣74「灸者、太陽之精、公正之明也、所以察姦除惡害也。針者、少陰之精也、太陽之光、所以用義斬伐也。治百中百、治十中十、此得天經脈讖書也、…」〔鈔〕丙部16a)

・觀神

『無上秘要』92昇上清品上「微呪曰：…迴眞曲映、來降我庭、通幽徹視、朗觀神形、八景翼仙、使我道成、…右出洞眞青要紫書金根上經。」

『七籤』99靈響詞五首（并序）「尹真人節解經云、内觀者觀神光、不可謂之不明。返聽者聞神聲、不可謂之無音。握固者精神備體、不可謂之無形。」

・天下地上四方六属六親之神

『經』48三合相通訣65「氣者、乃言天氣悅喜下生、地氣順喜上養；氣之法行於天下地上、陰陽相得、交而爲和、與中和氣三合、共養凡物、三氣相愛相通、無復有害者。」

同67六罪十治訣103「天不欲蓋、地不欲載、凶害日起、死于道旁。或窮於牢獄中、戮其父母、禍及妻子、六属郷里皆欲使其死、尚有餘罪、復流後生、或成乞者之後、或爲盜賊之子、爲後世大瑕。」

同91拘校三古文法132「上下俱爲實、迺天氣平也。…上下盡已實、帝王不以意平理之、則四時五

行六親之神吏、六宗之氣、中和戰怒、凶氣復發矣。」

・悦喜大〈天〉興善助人爲吉

『經』35興善止惡法43「如人君坐有所疑、而欲使善者大興、惡者立衰也。盜賊起、使即時得也。」

(四) 原文

吾道乃爲理天地、安帝王、生天地所愛者、乃當愛真道真德也。夫天者、乃道之真、道之綱、道之信、道之因而行也。地者、乃德之長、德之紀、德之所因緣而止也。故長爲萬物之母也、常忍辱居其下也、不自言勞苦也。吾之爲德君教化下愚、正以此天地二事爲祖。故常按天地之法度、不失其門戶也。吾之書即天譚地語、與神祇深獨相應若表裏也。

対校：經96忍辱象天地至誠與神相應大戒153（*『道藏』本誤作「二百五十三」）

「今且戒真人一大戒。吾道乃爲理天地、安帝王、生天地所愛者、乃當愛真道與真德也。故天者、乃道之真、道之綱、道之信、道之所因緣而行也。地者、乃德之長、德之紀、德之所因緣而止也。故能長爲萬物之母也、常忍辱居其下也、不自言勞且苦也。吾之爲德君教化下愚、正以此天地二事爲祖也。故常案天地之法度、不失其門戶也。吾之書即天談地語、與神祇深獨相應若表裏也。步即相隨若規矩也。故順行者得天地意、失之者凶衰矣。今以戒真人、子宜思吾言而常慎之矣。」

- ① 乃當愛真道真德也： 經「乃當愛真道與真德也」
- ② 夫天者： 經「故天者」
- ③ 道之因而行也： 經「道之所因緣而行也」
- ④ 故長爲萬物之母也： 經「故能長爲萬物之母也」
- ⑤ 正以此天地二事爲祖： 經「正以此天地二事爲祖也」
- ⑥ 故常按天地之法度： 經「故常案天地之法度」
- ⑦ 吾之書即天譚地語： 經「吾之書即天談地語」

書き下し

吾が道は乃ち天地を理め、帝王を安んじ、天地の愛する所を生ぜんとする者たれば、乃ち當に真道真徳を愛すべし。夫れ天は、乃ち道の真、道の綱、道の信、道の因りて行ふところなり。地は、乃ち徳の長、徳の紀、徳の因縁りて止むる所なり。故に長えに萬物の母たりて、常に忍辱して其の下に居り、自ら勞苦を言はず。吾の徳君のために下愚を教化するは、正に此の天地二事を以て祖と爲す。故に常に天地の法度を按じ、其の門戸を失はず。吾の書は即ち天譚地語、神祇と深く獨り相應ずること表裏の若し。

日本語訳

わが道は天地をおさめ、帝王を安んじ、天地が愛するものを生み出す役割を果たす。であれば、真道・真徳を愛さないといけない。天とは道の真・道の綱・道の信であり、道が行われる際に依拠するところである。地とは徳の長・徳の紀・徳が留まる際に依拠するところである。それ故とこしえに万物の母であり、常に下にあつて耐え忍び、自らその労苦を言わない。私が有徳の君のために下々の愚かな民を教化する際、まさにこの天地の二つを万事の大本とみなす。故に、常に天地という法度にのっとり、その基準を見失わない。私の書は天地の言葉に他ならず、神祇と表裏のごとく深く相応じるものである。

注

・道之眞、道之綱、道之信、道之因而行

『鈔』丁部12b 「天者、至道之眞也、不欺人也、萬物所當親愛、其用心意、當積誠且信、但常欲利不害、不負一物、故為天也。」

『經』50 諸樂古文是非訣77 「一者、道之綱；二者、道之橫行；三者已亂、不可明也。」

・徳之長、徳之紀、徳之所因縁而止

『經』39 解師策書訣50 「甲、天也、綱也、陽也；欲者、子也、水也、陰也、紀也；故天、與地、合、其綱、紀於玄甲子初出、此可為有徳上君治綱紀也、」

・下愚

『論語』陽貨「子曰：『性相近也、習相遠也。』」子曰：『唯上知與下愚不移。』」

・不失其門戸

『史記』126 滑稽列伝「(東方朔曰)方今以天下之大、士民之衆、竭精馳説、並進輻湊者、不可勝數。悉力慕義、困於衣食、或失門戸。」

『經』39 解師策書訣50 「夫物將盛者、必當開通其門戸也。」(『鈔』丙部23b)

『經』69 天讖支干相配法105 「日之界者、以日出於卯、入於酉、以南為陽、北為陰。天門、地戸、者、以巽初生東南角、乾初生西北角、以東北為陽、以西南為陰。」

『吳越春秋』勾踐七年「於是范蠡乃觀天文、擬法於紫宮、築作小城、周千一百二十二步、一圓三方。西北立龍飛翼之樓、以象天門、東南伏漏石竇、以象地戸；陵門四達、以象八風。」

(五)原文

天下之名今所屬、皆以類相從、故知命其所屬。故合五姓多者象陽而仁、合六情多者象陰而貪、又受陽施多者為男、受陰施多者為女、受王相氣多者尊貴則專、受休廢囚氣多者數病而早死、又貧極也。故凡人生者、在其所象五行之氣、其命者繫於六甲五曆、以類古之、萬不失一也。古者聖人深原凡事、知人情者以此也。真人知之耶。

「善乎子難，深得其數。然，禽獸者命繫於四方，其為性者好相抵觸，無有道德，勝者為右。無道德下愚之人，亦好相觸冒，勝者為右。其氣與禽獸同，故同命也。天道為法，以是分別人優劣，故知之也。凡天下之名命所屬，皆以類相從，故知其命所屬。故含五性多者象陽而仁，含六情多者象陰而貪，受陽施多者為男，受陰施多者為女，受王相氣多者為尊貴則壽，受休廢囚氣多者數病而早死，又貧極也。故凡人生者，在其所象何行之氣，其命者繫於六甲何曆，以類占之，萬不失一也。故古者聖人深原凡事，知人情者以此也。真人知之耶？」

▽① 天下之名今所屬：經「凡天下之名命所屬」 從經「命」

▽② 故知命其所屬：經「故知其命所屬」 從經

▽③ 故含五姓多者象陽而仁：經「故含五性多者象陽而仁」 從經

④ 又、受陽施多者為男：經「受陽施多者為男」

▽⑤ 受王相氣多者尊貴則專：經「受王相氣多者為尊貴則壽」 從經「壽」

⑥ 在其所象五行之氣：經「在其所象何行之氣」

⑦ 其命者繫於六甲五曆：經「其命者繫於六甲何曆」

▽⑧ 以類古之：經「以類占之」 從經

⑨ 古者聖人深原凡事：經「故古者聖人深原凡事」

書き下し

天下の名命（今）の屬する所、皆類を以て相從ふが故に其の命の屬する所を知る。故に五性（姓）を含むこと多き者は陽に象りて仁、六情を含むこと多き者は陰に象りて貪、又た陽施を受くること多き者は男となり、陰施を受くること多き者は女となり、王相の氣を受くること多き者は尊貴にして則ち壽（専）、休廢囚の氣を受くる多者は數ば病みて早死し、又た貧極まる。故に凡そ人の生まるるは、其の象る所の五行の氣に在り、其の命は六甲五曆に繫り、類を以て之を占（古）へば、萬に一も失はず。古者の聖人の深く凡事を原ねて人情を知るは此を以てす。真人之を知るや。

日本語訳

天下万物に名を付ける際の根拠は、いずれも類に従っているため、（名を知ることによって）その属する命を知ることができる。故に五性を含むこと多い者は陽をかたどり仁愛にあふれ、六情を含むことが多い者は陰をかたどり貪欲である。また、陽の施しを多く受けた者は男となり、陰の施しを多く受けた者は女となり、王相の氣を多く受けた者は尊貴でそれ故長寿となり、休氣・廢氣・囚氣を多く受けた者は病気がちで早死にし、またきわめて貧しい。故に、あらゆる人の誕生はかたどった五行の氣に左右され、その命は六甲五曆と連関し、その類によって占えば、万に一つも違えることはない。古の聖人が万事について深くその大本をさぐることで人の情を理解できるのは、このような理由による。真人はこ

のことが分かるか。

注

※『經』によれば、この一節は神人の「無道德者、命不在天地也、與禽獸同祿同命」という言葉に対して真人が解説を求め、神人がそれに応じて解説を施した内容の一部。

・五性（鈔「五姓」）

『大戴禮記』文王官人「四曰民有五性：喜、怒、欲、懼、憂也。喜氣内畜，雖欲隱之，陽喜必見。怒氣内畜，雖欲隱之，陽怒必見。欲氣内畜，雖欲隱之，陽欲必見。懼氣内畜，雖欲隱之，陽懼必見。憂悲之氣内畜，雖欲隱之，陽憂必見。五氣誠於中，發形於外，民情不隱也。」

・六情

『經』36守三實法44「六情所好，人人嬉之，而不自禁止，意轉樂之，因以致禍，君子失其政令，小人盜劫刺，皆由此不急之物爲召之也。」（鈔丙部19a）

・王相氣・休廢囚氣

『鈔』乙部・行道有優劣法（6a）「春王當温，夏王當暑，秋王當涼，冬王當寒，是王德也。夫王氣、與帝王氣相通，相氣與宰相相應，微氣與小吏相應，休氣與後宮相同，廢氣與民相應，刑死囚氣、與獄罪人相應，以類遙相感動。」

『經』102神人自序出書圖服色訣165「大重之衣五也，中重之衣四也，小重之衣三也，微重之衣象陰陽，二也。…二重何象，象王相氣相及也。」

・六甲五曆（何曆？）

『漢書』律曆志「夫五六者，天地之中合，而民所受以生也。故日有六甲，辰有五子，十一而天地之道畢，言終而復始。」

『經』50諸樂古文是非訣77「吾道即甲子乙丑，六甲相承受。五行轉相從，四時周反始。」（『鈔』丙部07a）

『經』72色死尸誡186「天有四維，地有四維，故有日月相傳推。星有度數，照察是非，人有貴賤，壽命有長短，各稟命六甲。生有早晚，祿相當直，善惡異處，不失銖分。」（鈔庚部21a）

*六甲：六十干支のうち、甲子・甲寅・甲辰・甲午・甲申・甲戌の六つ。

（六）原文

上視天而行、象天可爲。俯視地而行、象地德而移。念天地使父母生長我、不欲樂我爲惡也、還考之於心乃行。心者、最藏之神尊者也。心者、神聖純陽、火也。行火者、動而上行、與天同光。故日者、乃火之王、爲天下正、無不照明。故人爲至誠、心中正疾痛、心神聖、上白於日、月乃上白於天。故至誠於内者、神靈也。可不慎乎。

対校：經96忍辱象天地至誠與神相應大戒 153

「然、夫至誠者、名爲至誠、乃言其上視天而行、象天道可爲；俯視地而行、象地德而移。

念天地使父母生長我，不欲樂我為惡也，還考之於心乃行。心者，最藏之神尊者也。心者，神聖純陽，火之行也。火者，動而上行，與天同光。故日者，乃火之王，為天之正，無不照明。故人為至誠，心中正疼痛應。心神至聖，乃上白於日，日乃上白於天。故至誠於五内者，動神靈也。是故可不慎乎？」

- ① 象天可為： 經「象天道、可為」
- ② 火也： 經「火之行也」
- ③ 行、火者： 經「火者」
- ④ 為天下正： 經「為天之正」
- ⑤ 心中正疼痛： 經「心中正疼痛應」、或可以「應」字係下句而讀。
- ⑥ 心神聖： 經「心神至聖」
- ⑦ 上白於日： 經「乃上白於日」
- ▽⑧ 月乃上白於天： 經「日乃上白於天」 從經。
- ⑨ 故至誠於内者： 經「故至誠於五内者」
- ▽⑩ 神靈也： 經「動神靈也」 意當從經也
- ⑪ 可不慎乎： 經「是故可不慎乎」

書き下し

上は天を視て行へば、天に象りて為す可し。俯して地を視て行へば、地徳を象りて移る。天地の父母をして我を生長せしめ、我の惡を為すを欲樂はざるを念ひ、還た之を心に考へて乃ち行ふ。心は、最も藏の神の尊なる者なり。心は、神聖純陽にして、火なり。火を行へば、動きて上行し、天と光を同じうす。故に日は、乃ち火の王にして天下の正たりて、照明せざるは無し。故に人至誠たれば、心中正に疼痛あり、心神は聖なれば、上日に白し、日（月）は乃ち上天に白す。故に至誠の内におけるは、神靈（を動かす）なり。慎まざる可けんや。

日本語訳

上は天を見て行動すれば、天（道）をかたどって行動することができる。俯しては地を見て行動すれば、地徳をかたどって変化することができる。天地が父母に自分を生み育てさせ、自分が悪をなすことを願わないことを思い、さらにこれを心に留め考えてから行動するがよい。心は五臓神のうちで最も尊いものである。心は神聖かつ純陽であり、（五行うちの）火である。火をつければ、その炎は動いて上へ向かい、天と同じように光を放つ。故に太陽は火の王であり、天下の正中に位置し、すべてを明るく照らす。故に人が至誠であれば、心中まさに痛みを生じ、心神は（至）聖であるがゆえにそのことを太陽に奏上する。これを承けて太陽は天に奏上する。故に人の内にある至誠は神靈（を動かす）。であれば、身を慎まないでよかろうか。

注

※この一節、經では真人の「今願聞至誠以何而感動天地神靈乎？」なる問いから始まる。

・心者、神聖純陽、火也

『經』49 急學眞法 66 「聖賢與仁同心并力，故游居常尊道而貴德，倚附仁而處，如人好奪而不仁，與聖賢爲怨仇。故火爲心，心爲聖。」

『經』96 忍辱象天地至誠與神相應大戒 153 「精明人者，心也。念而不置者，意也，脾也。心者、純陽，位屬天。脾者純陰，位屬地。」

・動而上行

『鈔』乙部・安樂王者法 (9b) 「火自與五行同，又能變化無常，其性動而上行。」

・天下正 (『經』作「天之正」)

『鈔』丁部 (12a) 「青者生仁而有心，赤者太陽，天之正色。」

・故人爲至誠、心中正疾痛

『經』96 忍辱象天地至誠與神相應大戒 153 「行，人之至誠，有所可念，心中爲其疾痛，故乃發心腹而不食也。念之者，心也，意也。心意不忘肝最仁，故目爲其主出涕泣，是其精思之至誠也。精明人者，心也。念而不置者，意也，脾也。心者純陽，位屬天。脾者純陰，位屬地。至誠可專念，乃心痛涕出，心使意念主行，告示遠方。意，陰也，陰有憂者當報陽，故上報

皇天神靈。脾者，陰家在地，故下入地報地。故天地乃爲其移，凡神爲其動也。」

・上白於天

『經』114 大壽誠 200 「天上聞知，更爲善子，可得久生竟年之壽。爲汝作大，以是爲誠。諸神聞知，上白於天。天令善神隨之，治生有進，財復將增，生子遂健，更爲有足，是天恩也。」

『鈔』癸部 (2a) 「人腹中有過，反面赤，何也？」「心者，五藏之主；主即王也，王主執正，有過乃白於天也。」